

寒氣身を刺す

(昭和四十二年寮歌)

岡田雄三君 作歌
森田弘彦君 作曲

一

寒氣かんき身をみ刺さす北国きたくにの
永遠とわに名なを覇はす恵迪寮けいてきりょう
よんひやくやじん つと
四百野人の集いしに
我等われらが理想ロマン何時いつの日か
成さなざらむとぞ意氣いき高たかし

二

窈窕ようちょう多し札幌さつぽろに
弊衣へい破帽はぼうの身みなれども
一度歌ひとたぶたわば蛮声ばんせいの
遠く手稻ていねに木霊こだまして
嗚呼誰あだれか知しる吾わが野心やしん心

三

燃ゆる紅くれなゐ原始林げんしりん
尽きぬ想おもいを酒杯さかずきに
酔えよば肩取かたとり乱舞らんぶする
吾等われらが行先ゆくてに光明ひかりあり
樂たのしからずや此この饗宴うたげ

四

蒼空そうくうの下佇もとたたずみて
木この葉身はみに降ふる秋あきの日ひに
仮たといこの身みは一介いっかいの
卑いやしきものと知しるとても
吾わが野望やぼうは永遠えいえんに